

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 4 年 9 月 27 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 12名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	3名	

※事業所記入

事業所番号	3890400124
事業所名 (ユニット名)	グループホームきららハウスアイリス 1階
記入者(管理者) 氏名	青木 大介
自己評価作成日	令和 4 年 8 月 29 日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】 人としていつも通りをこの場所で</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 (目標)誰が読んでも1日の様子が見えるように記録を充実させる。 (取り組み)ケアプラン一覧表に特に少ない見落としがちな項目についてマーカー付け、意識しやすいようにする。 (結果)ケアプランの項目の記録が増えた。 (目標)全入居者様、自分の茶碗や湯呑、箸を使用いただき、楽しい食事をする。 (取り組み)行事の際にプレゼントさせていただいている。 (結果)ほとんどのの方が自分の茶碗、湯呑、箸だが、全員分はそろえられていない。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 開設して3年目を迎える元保育園の跡地に立つ事業所は、窓やテラスから穏やかな海の絶景を眺めることができる。コロナ禍で開設した事業所には、様々な制限が設けられているものの、管理者を中心として、前向きに考えながらできることを実践しており、日頃から、事業所近くにある防波堤沿いの散歩やドライブで季節の花などを見に行つて気分転換を図ったり、利用者一人ひとりの廊下を歩いた距離を壁に貼り出し、手作りした御朱印長とともに、四国八十八ヶ所巡りの図を目安にして歩く工夫をするなど、利用者の歩行訓練を行うきっかけや達成感にも繋がっている。また、訪問調査日に聞き取りを行った部屋は、地域住民が気軽に集える地域交流スペースとして活用することができるほか、1階ユニットへ繋がっていることもあり、職員と利用者の会話や笑い声が聞こえるなど、活気のある様子を窺うことができた。さらに、利用者のできることに着目して、洗濯物たたみや調理の下ごしらえ、モップ掛け、畑の世話など、職員は利用者にて得意なことやできることを役割として担ってもらい、張り合いや自信に繋がられるよう支援にも努めている。加えて、地域の高齢化が進んでおり、管理者は、「この地域の高齢者の生活に何が必要なのか、事業所として何が出来るか」などを考え、「地域の高齢者の生活に寄り添った事業所でありたい」という構想に向けて取り組んでいる。</p>
------------------------------------	--	---

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	入居時に面談を行い、本人、家族からの基本情報や趣味、これまでの暮らしを聞き意向の把握に努めている。ケアプラン更新時にも、本人、家族の意向を確認している。	○	/	○	
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	まず、本人に理由を聞く。それでもわからない時は表情や行動から読み取ることとしている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	本人より訴えがあった時には、家族に電話で本人の思いについて話し合っている。	/	/	/	入居前に、計画作成担当者等は利用者や家族から、暮らし方の希望や意向の聞き取りをしている。また、事業所で過ごしていく中で、職員が新たに知り得た意向などを記録に残し、職員間で共有をしている。さらに、希望や思いを言い表しにくい利用者には、職員が表情やしぐさなどを観察しながら、思いをくみ取るよう努めている。加えて、アセスメントシートには、詳細に把握した情報が整理されているほか、利用者のできることや希望、コミュニケーションなどの項目も記載することができる。
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	個人記録(介護ソフト)に発言された内容などを記入し、業務日誌のラベルにチェックを入れ、業務日誌に表示されるようにして共有化している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落としがないように留意している。	○	ユニット会での話し合いで個別に本人の生活について話し合いを行っている。居室にお邪魔し、個別に思いを傾聴している。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	入居時に事前面談を行い、家族、本人からこれまでの暮らし方について聞き取り、生活歴についてもシートに記入している。散歩など、聞き出しやすい環境の中で、話していただいている。	/	/	◎	入居前に、計画作成担当者等が自宅や利用施設等を訪問して生活環境を把握するほか、基本情報やアセスメントシートを活用して、利用者や家族から馴染みの暮らし方や生活歴などの聞き取りをしている。また、以前利用していた介護サービス事業所の担当者や介護支援専門員等から、情報を聞くこともある。さらに、アセスメントシートの情報は、介護計画の更新時に見直すとともに、追加記載や変更箇所は、分かりやすいように赤字で記載されている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	スタッフと共に、生活の中で、どんな事でも、とりあえず挑戦してみる事をし、その中での会話や出来る事より、出来る事等の発見に努めている。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	◎	個人記録に記録し、朝、夕の申し送りにて把握に努めている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	日々の情報をもとに、本人が何を求めているか検討している。家族の支援が必要な場合は電話にて連絡をしている。	/	/	○	事前に、職員は利用者や家族、関係者から意見を聞くほか、把握した情報をもとに、「どのように暮らしていきたいか、何を求めているのか」などを、職員間で利用者の視点に立って検討をしている。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	◎	本人の気持ち、意向を聞きながら、支援を行っている。家族の支援が必要な場合は電話にて連絡をしている。	/	/	/	
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人の意向に沿ってプランを作成している。	/	/	/	
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人やご家族から聞いた事をもとに、それぞれの意見を反映し、特記事項やカンファレンスの記録を参考にして作成するようにしている。	○	/	○	事前に、職員は利用者や家族から意見を聞くほか、受診等の際に、主治医から指示やアドバイスをもらい、アセスメント情報や把握した内容等をもとに、カンファレンスの中で、課題や日々のケア方法などを関係者を交えて話し合い、意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。また、介護計画の更新時にも、職員は利用者や家族等から、その都度意見の聞き取りをしている。
		c	重度の利用者に対して、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	生活歴を参考にしたりご家族から情報を聞き慣れ親しんだ暮らし方が出来るよう支援している。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	家族の支援が必要な時は、協力していただけるように計画をしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	本人の意向や、その日の様子を見て把握の努力をし、職員の勤務や状況を考えてそれを叶える努力をしている。表を作り、ケアプランに盛り込まれている事の把握や共有に努めている	/	/	/	○ 介護計画を一覧表にして、日々の支援内容を入力するタブレットの近くに置き、職員は計画の内容等をいつでも確認できるようになっている。また、重要事項等は、記録をプリントアウトをした上で、分かりやすくマーカーで印を付けて、職員への周知や共有を行いやすい工夫をしている。さらに、事業所には介護ソフトが導入され、パソコンやタブレットを活用してチェックや入力を行うことができ、計画に沿った支援内容を実施した部分に、印を付けて分かりやすく記録を残せるようになっている。加えて、その時々利用者の状況が確認できるように、具体的に会話形式の記録を残すことができている。前回の目標達成計画に、「誰が読んでも、1日の様子が見えるように記録を充実させる」という目標を立てて、管理者等を中心に、充実した記録が残せるよう工夫を重ねている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	△	介護計画に沿ってケアを実践している。実践できた時は、ケアプランのタグをつけているので確認できているが、その結果どうだったかまでは時々しか記録できていない。	/	/	/	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	個人に応じた期間を設け、その都度見直しをスタッフと共にやっている。	/	/	/	◎ 介護計画の期間に応じて、6か月に1回を基本として見直しをしている。また、月1回短期目標ごとにモニタリングを行い、目標達成度等を○△×の印を付けて評価を行い、利用者の現状を確認している。さらに、利用者の状態に変化が見られた場合には、家族の意見や主治医の指示などを受けて、カンファレンスを活用して話し合い、現状に合った介護計画を作成している。加えて、変更した介護計画を家族に送付する際には、変更箇所が分かりやすいように手紙を添えている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	月1回のスタッフ会議時、入居者の状態をスタッフ間で共有し、現状の確認を行っている。	/	/	/	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	ご新規の方等見直しを行っている。状態が変わった時は、スタッフと話し合ったり、ご家族様にご連絡をし、現状を話し合い、必要であれば、プランの変更を考えている。	/	/	/	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	定期的にはホーム会議、ユニット会議を行っている。緊急案件がある場合はその都度会議を開催している。	/	/	/	◎ 月1回ユニット会議を実施し、利用者の課題や現状などを職員間で検討をしている。また、2か月に1回全ての職員が参加したホーム会議を開催し、情報共有や内部研修を実施している。さらに、職員が会議に参加しやすいように、事前に日程や開始時間を設定するとともに、参加できなかった職員には、議事録を確認してもらうなど、確実な情報共有に努めている。加えて、緊急案件がある場合には、その都度管理者やユニットリーダー等が集まって迅速な話し合いを行うとともに、話し合われた内容は全ての職員に周知している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	会議は輪になって話しやすい距離間で意見を交換したり、事前に意見を紙に書いてもらったりなどして、スタッフ全員の意見を反映させられるよう工夫している。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	○	出来るだけ、自宅が遠い方の都合に合わせ、時間帯もパートの方等出られる時間帯を個人に聞いて調整している。参加できなかった場合は、管理者が説明し議事録に押印してもらっている	/	/	/	
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	必ず、出勤者全員で申し送りをしている。また、前日や夜間帯等の共有は、重要な情報を抽出した介護日誌をもとに話し合う時間を設けている	○	/	◎ 日々、朝夕の申し送りを口頭で行うほか、職員は情報交換ノートや介護日誌などに必要な情報を記載することができている。また、出勤時等には情報交換ノート等を確認するとともに、確認後にはサインを残し、全ての職員に正確な伝達を行い、情報共有に努めている。さらに、介護ソフトの記録をタブレット等で確認して、情報共有を行いやすくなっているほか、SNSのグループLINEを活用して、情報伝達が行われることもある。	
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	本人の意向や、その日の様子を見て把握の努力をし、職員の勤務や状況を考えてそれを叶える努力をしている	/	/	/	◎ 事業所で収穫した野菜を使用した希望のメニューを聞いたり、誕生日にはリクエストメニューを提供するほか、数種類のケーキから好きなものを選んでもらったりと、職員は利用者へ声をかけて、自己決定できるよう支援している。また、職員が飼っている犬と触れ合ったり、ペランダで焼き芋をしたりするなど、日々職員は利用者の笑顔に繋がるようなアイデアや工夫を凝らしながら、その時々感情や思いをキャッチして、喜びや楽しみのある生活が送れるよう支援している。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくらせている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	◎	入浴後の服などを選んでいただくなど、自己決定する機会や場面を作っている。	/	/	/	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのベースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	◎	就寝は本人のタイミングで行っていただいている。入浴も長くつかりたい方に対しては健康状態を考慮して、ぬるめのお湯で10分つかるなど支援をしている。コーヒーをご自身のタイミングで飲みたい方には、その時間帯にコーヒータイムを設けたりしている。	/	/	/	
		d	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	洗濯物たたみや、日々の食事作り、食器洗い、等を手伝っていただき、感謝の言葉を伝えている。	/	/	/	
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	主訴から少しずれた訴えに対してうまく対応できないことがあったが、訴えられた言葉から一つ一つ丁寧に考え、本人の意向に沿うようにしている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であかさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉かけや対応等)	○	入社時の研修や身体拘束適正化委員会で虐待や身体拘束は人権侵害であることを意識するようにしている。	○	○	◎	◎ ホーム会議の中で行う内部研修等を活用して、職員は利用者の人権や尊厳などを学んでいる。また、排泄の状況確認や介助を行う場合には、職員は利用者の羞恥心に配慮した支援に努めるとともに、他の利用者に失敗等が気づかれないような職員間の伝達が行われている。さらに、下着やパッド類を居室へ取りに行く場合にも、職員は配慮に欠けた無造作な対応をしないよう努めている。加えて、居室の入室時には、職員が声かけやノックをしてから入室するとともに、利用者の不在時にも、事前に声をかけてから入室するよう心がけている。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	◎	排泄時や入浴時にはプライバシーに配慮して扉を開めるなど注意出来ている。	/	/	/	
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	入室するときは、声掛けをしてからにしている。見守りが必要な時など以外は不必要に居室の扉を開けっぱなしにしないように配慮している。	/	/	/	
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	就業規則内の服務規律にも記載されており、日々の業務内でも個人情報の取り扱いには注意している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者にも助けをもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	洗濯物たたみ、食事作り、食器洗いなどしていただき、助けていただいている。終了後は感謝の気持ちを伝えている。	/	/	/	職員は、利用者同士の関係性や一人ひとりの性格を把握し、言い合いなどの些細なトラブルが起こりそうな場合には、職員が間に入り、利用者にも場所を移動してもらったり、話題を変えたりするなどの対応をしている。また、利用者同士の良好な関係も築かれ、相互の声かけや、家事などの助け合う場面も多く見られ、職員は温かく見守りを行っている。さらに、職員や利用者同士が声をかけ合うことにより、男性利用者も孤立することなく過ごすことができている。加えて、職員の配慮もあり、事業所が開設してから今までに、大きなトラブルは発生していない。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	寂しさや不安を感じられている入居者がおられると、入居者同士が優しい声掛けをしているのがよく見られる。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになつたり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)	◎	会話に整合性がとれなくなり、トラブルになりそうときは職員が間に入り、気持ちよく会話ができるようにしている。寂しさを感じておられる入居者に対して、世話役の入居者が手を握って声掛けされている場面もみられる。また、お互いに声をかけられ、ご自身のお部屋へ招待するなどされている場面も多々ある	/	/	◎	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	場所の移動や仲介をしている。また、話題を変える、作業提供をするなど別のところに気がそれるようにトラブルになる前に一時的に距離を置くなどしている。	/	/	/	
12	馴染みの人や場所との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	入居前には事前面談を行っています。又、日々の会話で話題にしたり面会の際にご家族様からお聞きする事もある。	/	/	/	
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていったりなど、これまで大切にしていた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	コロナの為、馴染みの場所に行くことは現在不可能だが、窓越し面会ではあるが、家族の協力があり、ご家族だけではなくお友達なども面会に来ていただいている。頻度も多く、人との関係が途切れないようには十分出ている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	◎	海岸沿いの散歩を行っている。ごみ捨ての際と一緒に屋外にて、入居者が固定されてしまわないよう声掛けを行っている。夕焼けが見たいと言われる入居者様と海まで見に行くなど、時間帯も出来る限り入居者様の希望を優先して行っている。	○	◎	◎	コロナ禍においても、日頃から、事業所近くにある防波堤沿い等の散歩をしている。また、職員は決まった利用者だけの散歩に留まらないように、気軽に事業所から一歩出て季節やその日の天気、風景を感じてもらえるような支援にも努めている。また、訪問調査日には、雨上がりの空気や状況を楽しみながら、職員と散歩する利用者の様子を見ることができた。さらに、コロナ禍の感染状況を見計らいながら、感染対策を講じた上で、ユニット毎に利用者全員で、季節に応じて、ドライブをしてあじさいなどの花を見に行ったり、ドライブスルーでハンバーガーなどの買い物をして屋外で食べたりするなど、利用者が気分転換を図れるよう支援することができている。ワゴン車を寄贈してもらい、利用者の外出支援の機会が広がっている。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	コロナウイルスの影響もあり、ボランティアの協力での外出支援は出来ていない。コロナウイルス対策をしながらレクでの外出を行っている。外出先では、お弁当を食べる場所を提供していただくなど地域の方の協力を得た。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	△	認知症の理解を深めるようにホーム会議で少しずつ話をしたりしているが、理解度は経験年数などによってまちまちではあると言えない状態。	/	/	/	日常生活の中で、利用者一人ひとりの残存機能に着目して、洗濯物干しや取り込み、ゴミ捨て、調理の下ごしらえ、畑作業などのできることでできそうなことが行えるような環境づくりを行い、職員は見守りや待つ介護のほか、利用者と一緒にいることができるよう支援している。また、歩行訓練の一環で、利用者一人ひとりの廊下を歩いた距離を壁に貼り出し、四国八十八ヶ所巡りの図を目安にして把握できるように工夫を行い、職員が手作りした一人ひとりの御朱印帳とともに、歩行訓練を行きつけや達成感にも繋がっている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	毎日のラジオ体操、排泄は出来る限りトイレで行う。廊下の歩行訓練は廊下を歩行する楽しみが出るように工夫している。屋外の散歩・家事手伝いなど生活の流れの中で維持向上できるように努めている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	◎	台所に入っていたり、野菜を切ったり、座位でも、自席で玉ねぎの皮をむいていただくように場面づくりをしている。食器洗いもしていただいている。	◎	/	◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	息子様や娘様にご飯をつくっていたという生活歴があり、今でも、ご飯を作るのが自分の役割だと思われている方がおり、調理の手伝いをしていただいている。	/	/	/	洗濯物干しやたたみ、調理の下ごしらえ、食器洗い、モップ掛け、ごみ集め、ラジオ体操の取りまとめ役など、日々の生活の様々な場面で、職員は利用者にも得意なことやできることを役割として担ってもらい、張り合いや自信に繋がれるよう支援している。また、歩行器にごみ袋を掛けて、ごみ出しを行う利用者もいる。さらに、地域清掃には、利用者と一緒に参加協力を行い、事業所周辺の草引きをするなど、職員は事業所内のみならず、役割や出番づくりにも努めている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごすように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	座位でたまねぎの皮をむいていただく、ラジオ体操時に体は動かしにくくても号令をかけていただく、一緒に洗濯物を干しに外に出る。ゴミ捨てに出るなど役割、出番をつくっている。	△	◎	◎	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	化粧水を使用されている方もおられる。思い入れのある時計や、アクセサリをされている。	/	/	/	起床時に、自分で着替えるとともに、化粧のほか、アクセサリを付けるなど、おしゃれを楽しんでいる利用者もいる。職員は、「全ての利用者にも、自分らしいおしゃれを楽しんでもらいたい」と考え、まゆ毛書きや化粧などの支援にも努めている。また、整容の乱れが見られた場合には、利用者のプライドや気持ちに配慮しながら声かけを行い、居室等に移動して着替えてもらったり、さりげないフォローをしたりしている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	◎	入居時に使われていたものを持ち込み頂けるように声掛けしている。居室にもハンガーをかけ、上着などの自己決定が出来るようになっている。腕時計を入居者と一緒に購入したり、抱いて寝るぬいぐるみと一緒に選んで購入するなどした。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	温度調節できるように、季節に合った服装をアドバイスしている。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	外出時には気候に合わせて、夏場でも冷房が効いていそうな場所に出かけるときは、上着を用意するなど、支援している。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできなくてさびしくカバしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	汚れている時には適宜更衣するようにしている。髭についても自分で剃れる方は剃っていただくように声掛けを行っている。床への食べこぼし等は職員が自然に掃除している。	○	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	美容師の資格を持つ、職員が髪を切っている。今は新型コロナウイルス感染対策の為、望む店での理容、美容は行っていない。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	現在、重度な方はおられないが、本人らしい髪形や服装をしていたらいいと思う。	/	/	○	
		h	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	食事は楽しみの一つとしてまた、栄養補給のため口から食べる事の大切さを考えながら食事形態等に配慮している。	/	/	/	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	もやしの根切り、玉ねぎの皮むき、材料を切る、お膳拭き、テーブル拭き、食器洗いなどしていただいている。買い物や献立づくりは入居者とともにしている。	/	/	◎	今までに作成した献立表や学校等の献立を参考にしながら、職員が献立を立て、週3回近隣のスーパーに職員が食材などの買い物に出かけるとともに、利用者に野菜の皮むきなどの下ごしらえや食器洗い、後片づけなどを手伝ってもらいながら、職員が調理をしている。広告を見て、食べたい物を言われる利用者もおり、普段から利用者のリクエストや好みを反映した食事の提供は、利用者に喜ばれている。また、季節に応じたうなぎなどの旬の食材を提供したり、事業所で収穫した野菜を使用したり、弁当を注文するなど、食事が少しでも楽しみになるような工夫をしている。食器類は、使い慣れた物を使用するほか、事業所で用意した使いやすい物を使用している。コロナ禍において、食事の際には、職員は食事介助などのサポートを行い、感染対策で利用者から少し離れた場所で同じ食事を食べるようになっている。キッチンにはフロアに面してオープンとなっているため、利用者は調理の匂いや音などを感じることができる。加えて、栄養士のアドバイスまでは受けていないものの、調理師資格を持つ職員がおり、意見を参考にしながら、職員間で栄養面や調理方法などの話し合いをしている。
		b	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	◎	もやしの根切り、玉ねぎの皮むき、材料を切る、お膳拭き、テーブル拭き、食器洗いなどしていただいている。お手伝いをさせていただいた後には必ず、感謝の言葉を伝えるようにしている。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	アレルギーは入居前に確認している。好き嫌いについては、情報収集しているものもあれば、提供して分かってくるものもある。	/	/	/	
		d	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって音なつかしいもの等を取り入れている。	◎	献立は季節感ができるように、土用の丑の日には鰻を提供したり、夏にはそうめんを提供するなど工夫している。	/	/	◎	
		e	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	◎	現在はミキサー食や刻み食が必要な方はおられない。おかずの大きさは食べやすい大きさと提供している。盛り付け方法も料理に合った、食器の選定など工夫はしている。	/	/	/	
		f	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	茶碗や湯呑、箸は使い慣れたものを入居時に持ってきていただいている。が入居者全員は出来ていない。	/	/	○	
		g	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	昼食は職員も一緒に食べている。現在はコロナウイルス感染予防の為、同じテーブルでは食事をしていない。誤嚥や食事の様子などに注意食べこぼしした場合のサポートを行っている。	/	/	◎	
		h	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	フロアからは音や匂いはもちろんのこと、作っている様子も見えるので、雰囲気作りは出来ている。	○	/	◎	
		i	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	入居者の体重の増減に合わせて、食事量の調節をしている。水分摂取量は、3食の他に、9時、15時やその間の時間に細かく摂取していただき、チェック表を用いて、一日トータルリットル摂取を目標にしている。	/	/	/	
		j	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	ご本人が好む飲み物を探している。スポーツドリンクが良いという方もおられれば、水が良いという方もおられる。回数も3食の他に、水分補給するタイミングを増やしている。それでもなかなか摂取量が増えない方に対しては、ゼリーやアイスクリームを提供するなどの工夫を行っている。	/	/	/	
		k	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	栄養士のアドバイスは受けていない。偏った食事になりそうときはメニュー変更を行っている。	/	/	○	
		l	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	調理器具は次亜塩素酸水、ハイターで消毒をしている。食材は職員が買い物に行き、鮮度の良いものを選んでいく。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	口の中の清潔が保てるように食事の後は口腔ケアを実施している。必要に応じて仕上げ磨きを行い食物残渣がないか確認するようにしている。				職員は、口腔ケアの重要性を認識しているものの、研修の実施までには至っていないため、今後研修の実施を予定している。また、自分で歯磨きができる利用者にも、口腔内の様子の確認をするほか、仕上げ磨きのサポートを行うなど、日々、全ての利用者の口腔内の様子を確認し、異常が見られた場合には、早期の歯科受診に繋げている。今後、定期的な歯科医による定期健診も検討している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	口腔ケア時に観察している。本人からの訴えがあるときには個人記録(介護ソフト)に入力している。必要時には歯科受診を行っている。			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	×	歯科医や歯科衛生士からは指導は受けていない。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	夜間、入れ歯洗浄剤を使用しているため、清潔が保たれている。義歯ブラシも活用している。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	◎	本人の行きやすいタイミングを見計らって声掛けや誘導を行い、コップや歯ブラシを準備する。まずはご本人にしてもらい、不十分なところは適宜お手伝いするようにしている。異常がある場合は、歯科受診を行っている。			○	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	適宜トイレ誘導し、トイレでの排泄が継続出来るよう支援している。トイレ誘導のタイミングについても、排泄時間を記録して活用している。夜間のみポータブルトイレを使用されている方もおられる。				事業所には、常時おむつを使用している利用者はおらず、トイレでの排泄支援を基本としている。また、排便チェック表等を活用して、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、職員は利用者への声かけやトイレ誘導をしている。さらに、常にパッド類などの排泄用品の使用状況を見直して、用品の使用頻度を減らせるように取り組んでおり、夜間使用していたパッドの減少やサイズの変更に繋がった事例もあるほか、紙パンツから布パンツに変更することができた利用者もいる。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	食欲減退や精神的な不穏、身体の不調等に繋がってしまうことを理解している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	排便チェック表で排便の量、形状をチェック。排尿も排泄時間をチェックしてパターンを把握している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々々の状態にあった支援を行っている。	◎	夜間、日中、状態に合わせて、使用するパッドの種類を変更したり、見直しをしている。	◎		◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	朝食時にヨーグルトを提供したり、水分量のチェックを行っている。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排便チェック表にてパターンや兆候が分かるので、声掛けや誘導を行っている				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	意思を伝えられない方もおられる為、職員間で話しあい、感じた事気付きをご家族に報告相談了解が得られたら使用としている。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	◎	夜間のみ大きなパッドを使用するなど、昼夜での使い分け、熱発時や体調不良時に変更するなど適時使い分けしている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	朝、メニューにヨーグルトを多くいれている。水分も食事から摂れる水分以外1リットル摂取することを目標としているが、それでも排便に滞りが見られる場合は、薬での調整を行っている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	時間帯と回数を決めている。本人からの拒否があった場合は、次の日に入っていたくように予定するなどしている。温度や入浴時間は健康上に問題がないかを考慮し希望に沿うように努力している。	◎		○	利用者は、週2回を基本として入浴をすることができる。季節に応じて、菖蒲湯やゆず湯など、気持ち良く楽しく入浴できるような工夫をしている。また、利用者から、入浴の回数や時間帯などの希望は今のところ出されていないものの、管理者は、「希望があれば、利用者の状態などを考慮しながら、できる限り対応していきたい」と考えている。さらに、入浴を拒む利用者には、時間帯や職員を替えて声かけをする工夫をするほか、散歩後に、入浴してもらうなどの対応を行い、入浴をしてもらうことができている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	同性介助が良い入居者に対しては同性介助を行っている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	自分で洗える所は自分で洗ってもらっている。浴室内の手すりも多く、入居者一人一人に合わせて、幅を調節できるので、安心して入浴していただいている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	◎	午前中、午後、など、時間を変える。声掛け、介助する職員を変えるなどの工夫。散歩してから汗をかいたのことで自然な流れで入浴できるようにしている。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴直前にバイタルの測定、入浴後は 適宜水分補給と休息がとれようとしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	昨晩が不眠だった場合には早めに休んでもらう等睡眠時間がとれるようにしている。個人記録にも睡眠状態を記入し、睡眠パターンを確認している。				事業所には、入居前から眠剤などの服薬を継続している利用者があるものの、「薬が効きすぎていないか、本当に必要かどうか」などの状態を確認しながら、主治医へ相談をしている。また、日中の過ごし方や職員の対応などの工夫を行いながら、薬に頼りすぎず、夜間に利用者が安眠できるよう支援している。中には、眠れない利用者が見られるものの、日中に昼寝などを取り入れるなど、ほとんどの利用者が、夜間に安眠することができている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中に活動をし、昼夜逆転にならないようにしている。しかし、体力面も考慮して、昼寝の時間も少しはとるようにしている。				
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	日中はなるべく起きていただくように、全体での体操の時間を設けたり、活動が少ない方には、声掛けを行い、コミュニケーションをとりながら、一緒に廊下を歩いたりしている。			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	昼寝の時間を取るように声掛けを行っている。ご自分から居室に入られる方もおられるが、おやつや体操の時間などを把握されており、その場合も、ご自分から起きて来られる方が多い。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	本人から希望があった場合にはご家族と電話で話を出来るように支援している。手紙の関しても、届いた手紙に対してお返事をかけるように、はがきの準備など、支援をしている。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	本人からの要望には電話、手紙等、対応しているが、こちらからの促しは行えていない。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	希望があった場合は快く対応している。が入居契約時に、ご家族から、取次ぎをしないようにと言われている方に対してはとりつけない。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	本人宛の手紙が来たときはお渡しし、届いたことを送り主にも報告するようにしている。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	家族に電話かけていただく事に理解、協力をいただいている。敬老会のメッセージの依頼をすると、送って頂いたり、して下さる。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	◎	お金を本人が使うことの大切さも理解はしているが、紛失のトラブルのリスクを考えて、お預かり金と言う形で家族からお金を預かっている。				
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	買い物先に理解や協力を得る働きかけを行うことはしていないが、トラブルになったことはない。新型コロナウイルス感染対策で、入居者とともに買い物に行く機会が少ない。				
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」など一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	紛失時のトラブルのリスクを考えて、お預かり金という形で購入希望があるものは購入できるように支援している。本人はお金を所持していない。				
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	◎	入居契約時にお預かり金という形で、使用させていただく事を説明している。				
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	お預かり金という形で、受領書の発行、毎月の利用料請求書送付時にレシートのコピーと出納帳を送付し、明確にしている。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	◎	コロナウイルスの関係で関東や大阪に家族がおられる場合などは手紙を送っていただいたり、テレビ電話をしながら家族との関係が途切れないように支援している。	○		○	コロナ禍において、事業所には外出や面会などの制限が設けられているものの、利用者や家族の希望や要望に応じて、職員は可能な範囲で、柔軟な対応を心がけている。また、医療保険を活用して、デイケアを利用している利用者もおり、管理者は、「既存のサービスに捉われない、多様なニーズに応えていきたい」と考えている。
(3) 生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	玄関横に事務室があり、窓越しに来客者が来られたのがわかるので、声掛けを行っている。	◎	◎	◎	事業所横の駐車場には、自動販売機が設置され、近隣住民や高校生が良く利用している。また、事業所には、地域住民が集える地域交流スペースがあり、現在のコロナ禍において、開放を自粛しているものの、交流スペースは道路沿いから直接出入りできる構造となっている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を感じており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていない等。)	◎	廊下や台所、トイレなどは電気の色も温かきを感じられる色になっている。見通しもよく、食堂、台所、廊下で仕切っている壁やドアがないため、住まいとしての心地よさがある。	◎	○	◎	各ユニットの壁には、特徴を活かした季節を感じる秋の果物や植物などの飾り付けが行われているほか、窓やテラスからの眺めを合わせて、利用者は季節を感じられるようになっている。また、建物は新しく、整理整頓も行き届いて快適な空間となっているほか、家庭的な雰囲気も感じられる。さらに、天井に設置されているエアコンは、利用者に直接風が当たらないような、風向きが調節できる優しい構造となっている。加えて、リビングの窓やテラスからは、海の絶景を見渡すことができ、毎日利用者や来訪者の目を楽しませてくれている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	毎日環境整備を行っている。臭いにも配慮し換気をする、次亜塩素酸水での掃除をしている。	/	/	◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	壁面の飾りを季節感に沿ったものに変更している。職員が、庭に咲いている花がある場合などは、テーブル等に飾るなどしている。	/	/	◎	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	フローアにソファを置ける。机の配置も工夫し、気の合う入居者同士で思い思いに過ごせるようになっている。居室では独りになれる。廊下が一直線になっており、一歩居室を出ればスタッフコーナーに職員がいるので、人の気配を感じられる。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	家族の写真を飾ったり、使い慣れたものを持って来ていただくことで、本人が居心地よく過ごせるように工夫している。	○	/	○	居室には、ベッドやエアコン、ハンガーラック、ミニタンスが備え付けられている。また、馴染みの物や使い慣れた物を持ち込むことができるほか、職員は居心地の良い空間づくりを支援している。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	トイレにはトイレのマークを掲示、居室は表札を貼り、わかりやすいように工夫している。	/	/	○	事業所には、利用者が認識しやすいように、分かりやすいトイレの表示がされているほか、居室には表札のほか、分かりやすいように目印を付けるなどの工夫をしている。また、居室にあるハンガーラックは、身長に合わせて、利用者が使用しやすいように高さを調整している。さらに、利用者が毎日の日付けを確認できるように、日めくりカレンダーを設置している。
		b	利用者の活動意欲を醸成する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	新聞は1階と2階で順番に回している。読み終えた新聞紙は入居者とゴミ箱を作るのに活用している。	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていること、異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感、あきらめ、気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	◎	身体拘束適正化委員会で鍵をかける事の弊害について勉強をした。夜間以外は鍵をかけていない。	◎	○	◎	職員は内部研修で学び、鍵をかけることの弊害を理解しており、日中に、玄関やユニットの入り口の施錠はしていない。利用者の安全に考慮して、センサーチャイムの設置があり、職員は出入りする利用者等を把握しやすくなっており、外へ出たい利用者には、職員が付き添い、一緒に屋外に出て散歩をするなどの支援をしている。また、利用者は気軽に窓から外に出て、敷地内でネギなどの野菜を収穫したり、朝顔などの花を觀賞したりすることもできる。さらに、事業所の窓から見える海沿いの小道を歩くことができ、開放感が感じられる。加えて、夜間は防犯のため、玄関の施錠をしている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	鍵をかけないことで一人で出て行ってしまおうのではないかと不安がご家族の方もいらっしゃるが、玄関ホールと居住空間の扉にはドアが開くと音が鳴る事も説明し安全確保についても説明している。	/	/	/	
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	入居前の面談の際に情報収集するようにしている。	/	/	/	/
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	バイタルを毎日測定し、変化を記録に残している。入浴前にも検温を行っている。	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	連携看護師の訪問、矢野Drの往診時に気になることがあれば、報告、相談を行っている。	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受診状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	かかりつけ医に関しては入居時に相談させていただいています。ご希望に応じて希望する医療機関で受診出来るよう支援している	◎	/	/	/
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	入居時にかかりつけ医の相談をし、納得を得られている。本人及び、家族の希望を大切にしながら、かかりつけ医に相談し、通院の介助を行っている。	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	通院にしようとするときには事前に家族に説明し、合意をいただいている。同行の希望があった場合、一緒に行っている。結果についても、電話で報告を行っている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院までの経緯をまとめ、入院先に情報共有している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	病院関係者と連絡を密に取り合うようになっている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	往診の前日には入居者の健康状態に気になる所をFAXでDrに送っている。訪問日以外でも、皮膚の異常を発見したときなど、連携看護師に電話、ラインで画像を送るなどをして、アドバイスをいただいている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	連携看護師、Drの携帯電話番号を教えていただいているので、24時間相談できる対応がある。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	毎日バイタル測定を行っている。状態変化を感じ取れば、かかりつけ医に相談している。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	△	各個人別にお薬情報を管理し、すぐに確認できるようにしている。副作用等についてはすべて把握できていない。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	マニュアルを作成し、毎日トリプルチェックを実施している。朝昼夕で薬袋の色も変えひと目でわかる工夫もし、飲み忘れや誤薬を防げるよう取り組んでいる。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	薬の内容に変更があった場合には特に気を付けて経過観察している。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入居時に終末期のあり方について意向を確認し、終末期には主治医が説明し家族に再度意向を聞き話し合い方針を共有している。				事業所には、「看取り介護に関する指針」があり、入居時に全ての利用者や家族等に対応できることなどの説明を行うほか、状況が変化した場合には、再度意向を確認している。また、重度化や状態の変化があった場合には、その都度医師から説明してもらうとともに、関係者を交えて話し合い、方針を共有している。開設から1件の看取り介護を経験しており、主治医や看護師との連携体制が構築されている。さらに、看取り介護の研修を実施し、職員の不安や負担の軽減に努めている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	入居時に終末期のあり方について意向を確認し、終末期には主治医が説明し家族に再度意向を聞き話し合い方針を共有している。	◎		◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	医療連携機関と協力し、ホームで行える支援内容を明確にする。家族に説明し、同意を得るようにする。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	理解と同意を得て対応するように、話し合いを行う。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	ご家族や協力医療機関と連携を図りながら支援していく体制を整えている。今後の変化に備えての準備はかかりつけ医よりアドバイスがある。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	面会の際や電話等で経過報告をこまめに行っている。ご家族から相談があれば、ゆとり時間を取りお話しする時間を設けている。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	△	入社時に研修を行っている。定期的には出ていない。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	コロナの対策のマニュアルをたてている。インフルエンザに対しての出動停止の基準を作成し、周知している。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	◎	保健センターから最新状況をメールしていただいている。自発的にもインターネットから情報を収集している。				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	洗面台に手洗いの手順、洗い残しの多い箇所、アルコール消毒の手順を掲示している。食事前にはアルコール消毒を徹底している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	変わったことがあれば、電話で報告している。2ヶ月に1回状況報告の手紙、写真付きの広報紙を発送している。また、何かの用事でご家族様に電話をする際も、近況報告をし、家族と話し合っている。	/	/	/	コロナ禍において、事業所では、家族の参加できる行事や会議の開催を自粛している。面会制限が設けられているものの、事業所の方針で、遠方に住んでいる以外の家族には、月1回利用料支払いで事業所に来訪してもらい、利用者と面会するほか、管理者や職員から利用者の様子を伝えて、意見や要望を聞くようにしている。また、2か月に1回事業所便りを送付するほか、担当職員が利用者の近況等を記載した手紙に写真を添えて送付をしている。さらに、SNSのFacebookを活用して、利用者の日々の暮らしの様子を見ることができている対応を行い、まだ少数であるものの閲覧している家族もいる。加えて、電話やメールなどのツールを活用して、家族と連絡を取りやすい工夫をしている。
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	○	広報紙に行事予定を掲載し、案内している。コロナが終息すれば、ご家族にも参加していただきたい。	x	/	△	
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たよりの」発行・送付、メール、行事等の録音、写真の送付等)	◎	家族が知りたいことや不安に感じていることがあれば、電話や直接施設でお話していただいたり、手紙のやり取りも、手紙を書く場合は、写真などを載せ状況がわかるようにしている。	/	○	◎	
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	◎	関係性については概ね理解できている。薬代金と往診代金を毎月持って来ていただき、月に1回は面会していただきやすいようにしており、関係の再構築の支援をしている。	/	/	/	
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	◎	請求書を郵送する際に行事については広報紙で行事の予定を記載、写真での状況報告。運営推進委員会の資料で文章での状況報告を行っている。職員の異動退職については報告できていない。	/	◎	◎	
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	◎	入居時に高齢者に起こるリスクについて説明している。電話や面会時に状態報告し、これから起こるリスクについても説明や対策について話し合うようにしている。	/	/	/	
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	ご家族様との会話の中で気がかりな事等ある場合は、密に連絡を取り合い、家族様と話をしている。	/	/	◎	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	重要事項説明書に記載して契約時に、難しい言葉などを使わず、時には解りやすいように具体例を出し、説明を行い同意を得ている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	ご本人の経過をふまえてご家族や主治医と相談し納得のいく退去先に移れるよう支援している。	/	/	/	
III. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域、事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	◎	内覧会にきていただき、ホーム内を見学、パンフレットをお渡しした。地域の奉仕作業にも参加し、理解を図っている	/	◎	/	コロナ禍において、地域住民と交流する機会は少ないものの、事業所周辺の散歩時には、挨拶や会話を交わすほか、地域清掃の際には、利用者と一緒に参加して、草引きなどに協力をしている。また、事業所には、地域住民が気軽に集える場として、トイレやミニキッチンが設置されている地域交流スペースが整備されているものの、コロナ禍において、現在は活用されていない状況となっている。交流スペースは、道路に面した出入り口から、コロナ禍の収束後には周知を行い、活用を予定している。今年は、地域の秋祭りが実施される予定で、管理者は、「休憩所として、交流スペースを開放したい」と考えている。コロナ禍の収束後には、交流スペース等を活用した地域住民との交流が図られることを期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なおつきあいや、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	◎	奉仕作業への参加や海岸を散歩する時に、釣りをしている方や、散歩されている地域の方に挨拶をしたり、声掛けをしてもらったりしている。	/	◎	◎	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	◎	フロアへの窓からも散歩されている地域住民の方が見え、手を振っていただくことがある。また、海岸を歩かれる方から、姿が見えない入居者について、心配して下さる声掛けがある。	/	/	/	
		d	地域の方が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	x	現在はコロナ対策で立ち入り制限をしている。コロナウイルスが終息すれば、気軽に立ち寄りできるようにしたい。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらったりなど、日常的なおつきあいをしている。	△	散歩中に会う時は、あいさつ出来ている。施設の玄関周りの掃除の時など近所様から、挨拶や声掛けをして頂く事がある。日常的なおつきあいは出来ていない。コロナウイルスが終息すれば、気軽に立ち寄りできるようにしたい。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	公民館に紅白幕や将棋盤などを貸していただけた。コロナウイルスが終息すれば、ボランティアにもきていただきたい	/	/	/	
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	◎	運営推進などで関係作りをしている。近隣のグループホームと交流があり、情報共有や、困った時は助けて頂いたりしている。消防では、花火行事等では連絡をするなどし名前を覚えて頂いたり、近日では、取れなくなった指輪を切ってもらって消防署に相談・訪れたこと、お知り合いになる事が出来た。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	コロナウイルス感染予防のため、会議は中止し、運営状況をまとめた書類を会議メンバーに送付している。	○	/	△	開設当初からコロナ禍のため、今までに事業所では、集合形式での運営推進会議を開催することはできておらず、文書開催のみとなっている。文書開催においても、地域の区長や公民館長、消防団員、他の事業所の職員、町行政の担当者などの会議の参加メンバーに議事録を送付するほか、全ての家族にも資料の送付を行うことができている。また、議事録の送付時には、意見を伺う文書を添付して、意見や要望を聞くほか、出された質問や意見に対する返答を行うなど、書面開催においても、一方的な報告に終わらないような会議の工夫をしている。コロナ禍の感染状況を見計らいながら、集合形式の会議を行うとともに、事業所内の様子に参加メンバーに見てもらえる機会が持てることを期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	◎	運営推進会議の資料には必ず、ご意見のQ&Aを設けており、返ってきた質問はスタッフ会で話し合い、答えと会議の内容を必ずお送りするようにしている。	/	◎	◎	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	1か月前には案内を出す。参加しやすい時間帯のアンケートを取るなどして、通常開催になった時には少しでも多くの方に参加していただけるよう工夫したい。	/	○	/	
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念をフロア、玄関に見えやすいように大きく貼っている。	/	/	/	代表者は、近隣にある系列の介護サービス事業所にいることが多く、来訪する機会は少ないものの、日頃から管理者は相談しやすいほか、職員から出された意見をすぐに伝えて対応するなど、働きやすい職場環境づくりに努めている。また、ホーム会議を活用して内部研修を行うほか、認知症実践者研修や県地域密着型サービス協会の外部研修等に参加し、職員のスキルアップに努めている。さらに、定期的に、職員は個人の目標を立てて、年2回管理者等と見直しや振り返りなどの個別面談を行い、意見を聞くことができています。加えて、法人・事業所として、希望する外部研修に参加できるほか、資格取得への支援体制も整えている。
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	運営推進会議の資料に掲載するようにしている。	△	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文書の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	研修案内があった場合には全職員に案内し、適宜声掛けをして研修に参加している。	/	/	/	代表者は、近隣にある系列の介護サービス事業所にいることが多く、来訪する機会は少ないものの、日頃から管理者は相談しやすいほか、職員から出された意見をすぐに伝えて対応するなど、働きやすい職場環境づくりに努めている。また、ホーム会議を活用して内部研修を行うほか、認知症実践者研修や県地域密着型サービス協会の外部研修等に参加し、職員のスキルアップに努めている。さらに、定期的に、職員は個人の目標を立てて、年2回管理者等と見直しや振り返りなどの個別面談を行い、意見を聞くことができています。加えて、法人・事業所として、希望する外部研修に参加できるほか、資格取得への支援体制も整えている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	実践者研修に順番に行っている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	常に勤務表を把握しており、個々を気にかけている。また、研修へ行きたいと申し出のある者に対しては、金銭面等全面的にサポートしていただいている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	◎	地域密着協会に参加している。地域密着型サービス連絡会議に参加している。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	有給取得や急な欠勤でも対応できるように職員の勤務体制を作っている。	○	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	○	高齢者虐待の勉強会や研修などを行っている。また、スタッフ会やユニット会などでも、意見を出し合い、不適切なケアになっていないか話し合っている。	/	/	○	職員は、高齢者虐待の防止などを内部研修で学んでいる。また、対応方法のマニュアルを整備しているほか、定期的にホーム会議等を活用して、日々のケアの振り返りを行うとともに、「どのような言動が不適切な行為にあたるのか」などを、職員間で話し合い、注意喚起をしている。さらに、不適切な行為が見られた場合には、管理者等へ報告するなど、職員は対応方法や手順を理解している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	毎月ホーム会議、ユニット会議を開催し、話し合いの場を設けている。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	△	適宜、話を聞いたり仕事の様子を見るようにしている。が十分ではない。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	入社時の研修と身体拘束適正化委員会と研修を行い、正しく理解できている。	/	/	/	職員は、高齢者虐待の防止などを内部研修で学んでいる。また、対応方法のマニュアルを整備しているほか、定期的にホーム会議等を活用して、日々のケアの振り返りを行うとともに、「どのような言動が不適切な行為にあたるのか」などを、職員間で話し合い、注意喚起をしている。さらに、不適切な行為が見られた場合には、管理者等へ報告するなど、職員は対応方法や手順を理解している。
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	ホーム会議の身体拘束適正化委員会で、ホームの状況と照らし合わせて話し合いを行っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を促している。	◎	入居契約時に身体拘束はルール違反との認識をしており、緊急やむを得ない場合でない場合で、ご家族、本人に同意を得た場合でない限り行わない事を説明している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	△	一部の職員しか理解できていない状況。				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	×	該当する事例がない。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	急変時や事故発生時のマニュアルがあり職員に周知している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	定期的な訓練は行えていない。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	ヒヤリハット・事故報告書があり発生時には報告書に記入し再発防止策を立てている。1階、2階回覧し、全職員に周知。ホーム会議で再確認を行っている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	同じ事故が繰り返さないように再発防止策を立て、検討を行っている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	今年度、事例はないが、苦情があった場合にはスタッフ間で共有し、対応方法について検討する。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	今年度、事例はないが、あった場合には速やかな対応と必要であれば、市町村にも相談・報告を行う。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情があった場合には速やかに回答と前向きな話し合いを行う。現時点で苦情は来ていない。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	ケアプラン更新時に、本人の希望を聞く機会がある。また、日常的にも話していただいている。	○		◎	日頃から、職員は利用者から意見を聞き、可能な範囲で対応をしている。家族からの意見や要望は、来訪時や電話連絡などを活用して、職員は利用者の様子を伝えて、話しやすい環境づくりに努めている。介護計画の更新時には、家族から必ず意見や要望を聞くことができている。また、日頃から管理者は、現場で職員と一緒に利用者のケアに従事していることもあり、職員の意見や提案を聞いているほか、年2回職員との個別面談を実施するとともに、ユニット会議等を活用して、助言や相談に応じることもできている。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	◎	玄関に意見箱を設置している。運営推進会議の資料にも意見を記入するスペースを作っている。				
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	訪問し、直接職員に声をかけ、話をされている。				
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	毎月のホーム会議後のユニット会に参加し、意見や提案を聞いている。また、個人的にも、提案や意見を聞き、ホーム会議の議題とするなどして全員で検討できるようにしている。			◎	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	入社時の研修で外部評価について、外部評価の項目の説明を行い、サービス評価の意義や目的を理解している。				外部評価の自己評価は、管理者等を中心に作成をしている。また、職員にはホーム会議等を活用して、サービスの評価結果等の報告を行い、ユニット毎に目標達成計画を立てて取り組んでいる。さらに、サービスの評価結果や目標達成計画等は、運営推進会議の参加メンバーや全ての家族に報告をしている。コロナ禍において、事業所へ来訪する機会は少なく、目標達成への取り組み状況の確認などのモニター機能の活用までには至っていないため、コロナ禍の収束後には、外部評価の目的や意義を伝えて理解を促して、参加メンバーや家族にモニターへの協力を呼びかけたり、目標達成に向けた途中経過を報告して、意見やアドバイスをもらったりするなど、出された意見等がサービスの向上に繋がることを期待したい。今後、管理者は、モニターの活用を予定している。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	今回の結果を踏まえて、実現可能な目標達成計画を作成し、事業所全体で取り組んでいく予定。				
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	今回の評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしていただく予定。	○	○	△	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認する。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	マニュアルがあり、玄関とスタッフコーナーに設置し、いつでも見られるようにしている。	/	/	/	事業所では、各種マニュアルを整備しているほか、年2回避難訓練を実施している。また、伊方原子力発電所から、八幡浜市内が30キロ圏内に位置することから、県の原子力防災訓練にも協力して、実際に松山への避難も経験している。近隣には、地域の消防団幹部の方が住んでおり、会議の参加メンバーにもなってもらうことができている。コロナ禍の収束後には、地域住民との合同訓練を呼びかけたり、運営推進会議を活用して、防災をテーマに地域住民が負担にならない程度の協力体制を話し合ったりするなど、少しずつ地域との協力支援体制が築かれていくことを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	日中の火災を想定した避難訓練を行ったり、原子力災害を想定した県の避難訓練に参加し、松山まで避難した。	/	/	/	
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	消火設備は業者へ委託し定期的に点検している。備蓄の食糧についても点検を行っている。	/	/	/	
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	消防署員に来ていただき、避難訓練を行っている。今回、9月中に避難訓練予定。地域住民や他事業所と合同訓練や話し合う機会などは確保できていない。	△	○	△	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	県が行った原子力災害の避難訓練に参加し、松山のパートナーハウスかとれあまで避難を行った。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	地域に向けた情報発信として、運営推進会議で運営報告を行っている。認知症サポーター養成研修に参加したスタッフもあり。その他の研修には参加できていない。	/	/	/	開設から今までに、事業所として、地域の高齢者や家族から相談を受けた事例はないものの、相談が寄せられた場合には、適切に対応できる体制を整えている。コロナ禍において、会議や研修に参加する機会は少ないものの、地域包括支援センターや他の事業所との連携や協力を図ることができている。また、県地域密着型サービス協会に加入し、研修や会議に参加しながら連携をしている。管理者は、「この地域にとって、何が必要なのか、何か力になれることをしたい」という強い思いがあり、「地域の高齢者の生活に寄り添った事業所でありたい」との構想を練っている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	電話での相談。施設見学に来られた際に相談を受ける事はあるが、地域の高齢者や認知症の人の相談支援取り組みまでは出来ていない。	/	△	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	事業所を開放、活用し、地域の交流の場、秋祭りの練り宿とし活用する事を前提に設計しており、コロナウイルスが終息すれば、積極的に地域交流していきたい。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	連絡があれば受け入れる予定。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	市内の地域密着型サービス事業者が集まる連絡会議に参加している。	/	/	○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 4 年 9 月 27 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 12名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	3名	

※事業所記入

事業所番号	3890400124
事業所名 (ユニット名)	グループホームきららハウスアイリス 2階
記入者(管理者) 氏名	青木 大介
自己評価作成日	令和 4 年 8 月 29 日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】</p> <p>人としていつも通りをこの場所で</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>(目標)誰が読んでも1日の様子が見えるように記録を充実させる。 (取り組み)①こちらから何かを提供し、記録するようにする。②できるだけタイムリーに記録する。③その時の入居者の言葉や表情も入力する。 (結果)必要な記録(食事量、水分量)は出来ているが、その人の1日の動きがあまり見えず、十分に記録出来ているとは言えない。</p> <p>(目標)職員間の声掛けを増やし、入居者様の言動に寄り添う。 (取り組み)訴えがある時は耳を傾け、気持ちを聞き出し、否定せずに聞き入れる。 (結果)入居者様の声を聞くことが出来ている。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>開設して3年目を迎える元保育園の跡地に立つ事業所は、窓やテラスから穏やかな海の絶景を眺めることができる。コロナ禍で開設した事業所には、様々な制限が設けられているものの、管理者を中心として、前向きに考えながらできることを実践しており、日頃から、事業所近くにある防波堤沿いの散歩やドライブで季節の花などを見ながら行くことを実践しており、利用者一人ひとりの廊下を歩いた距離を壁に貼り出し、手作りした御朱印長とともに、四国八十八ヶ所巡りの図を目安にして歩く工夫をするなど、利用者の歩行訓練を行うきっかけや達成感にも繋がっている。また、訪問調査日に聞き取りを行った部屋は、地域住民が気軽に集える地域交流スペースとして活用することができるほか、1階ユニットへ繋がっていることもあり、職員と利用者の会話や笑い声が聞こえるなど、活気のある様子を窺うことができた。さらに、利用者のできることに着目して、洗濯物たたみや調理の下ごしらえ、モップ掛け、畑の世話など、職員は利用者にとって得意なことやできることを役割として担ってもらい、張り合いや自信に繋がられるよう支援にも努めている。加えて、地域の高齢化が進んでおり、管理者は、「この地域の高齢者の生活に何が 필요한のか、事業所として何が出来るか」などを考え、「地域の高齢者の生活に寄り添った事業所でありたい」という構想に向けて取り組んでいる。</p>
---------------------------------------	---	--

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	入居時に面談を行い、本人、家族からの基本情報や趣味、これまでの暮らしを聞き意向の把握に努めている。ケアプラン更新時にも、本人、家族の意向を確認している。	○	/	○	入居前に、計画作成担当者等は利用者や家族から、暮らし方の希望や意向の聞き取りをしている。また、事業所で過ごしていく中で、職員が新たに知り得た意向などを記録に残し、職員間で共有をしている。さらに、希望や思いを言い表しにくい利用者には、職員が表情やしぐさなどを観察しながら、思いをくみ取るよう努めている。加えて、アセスメントシートには、詳細に把握した情報が整理されているほか、利用者のできることや希望、コミュニケーションなどの項目も記載することができる。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	まず、本人に理由を聞く。それでもわからない時は表情や行動から読み取ることとしている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	本人より訴えがあった時には、家族に電話で本人の思いについて話し合っている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	個人記録(介護ソフト)に発言された内容などを記入し、業務日誌のラベルにチェックを入れ、業務日誌に表示されるようにして共有化している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落としなないように留意している。	○	ユニット会での話し合いで個別に本人の生活について話し合いを行っている。居室にお邪魔し、個別に思いを傾聴している。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	◎	入居時に事前面談を行い、家族、本人から今までの暮らし方について聞き取り、生活歴についてもシートに記入している。散歩など、聞き出しやすい環境の中で、話していただいている。	/	/	◎	入居前に、計画作成担当者等が自宅や利用施設等を訪問して生活環境を把握するほか、基本情報やアセスメントシートを活用して、利用者や家族から馴染みの暮らし方や生活歴などの聞き取りをしている。また、以前利用していた介護サービス事業所の担当者や介護支援専門員等から、情報を聞くこともある。さらに、アセスメントシートの情報は、介護計画の更新時に見直すとともに、追加記載や変更箇所は、分かりやすいように赤字で記載されている。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	スタッフと共に、生活の中で、どんな事でも、とりあえず挑戦してみる事をし、その中での会話や出来る事より、出来る事等の発見に努めている。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	◎	個人記録に記録し、朝、夕の申し送りにて把握に努めている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	日々の情報をもとに、本人が何を求めているか検討している。家族の支援が必要な場合は電話にて連絡をしている。	/	/	○	事前に、職員は利用者や家族、関係者から意見を聞くほか、把握した情報をもとに、「どのように暮らしていきたいか、何を求めているのか」などを、職員間で利用者の視点に立って検討をしている。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	◎	本人の気持ち、意向を聞きながら、支援を行っている。家族の支援が必要な場合は電話にて連絡をしている。	/	/	/	
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人の意向に沿ってプランを作成している。	/	/	/	事前に、職員は利用者や家族から意見を聞くほか、受診等の際に、主治医から指示やアドバイスをもらい、アセスメント情報や把握した内容等をもとに、カンファレンスの中で、課題や日々のケア方法などを関係者を交えて話し合い、意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。また、介護計画の更新時にも、職員は利用者や家族等から、その都度意見の聞き取りをしている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人やご家族から聞いた事をもとに、それぞれの意見を反映し、特記事項やカンファレンスの記録を参考にして作成するようにしている。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対して、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	生活歴を参考にしたりご家族から情報を聞き慣れ親しんだ暮らし方が出来るよう支援している。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	家族の支援が必要な時は、協力していただけるように計画をしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	本人の意向や、その日の様子を見て把握の努力をし、職員の勤務や状況を考えてそれを叶える努力をしている。表を作り、ケアプランに盛り込まれている事の把握や共有に努めている	/	/	/	○ 介護計画を一覧表にして、日々の支援内容を入力するタブレットの近くに置き、職員は計画の内容等をいつでも確認できるようになっている。また、重要事項等は、記録をプリントアウトをした上で、分かりやすくマーカーで印を付けて、職員への周知や共有を行いやすい工夫をしている。さらに、事業所には介護ソフトが導入され、パソコンやタブレットを活用してチェックや入力を行うことができ、計画に沿った支援内容を実施した部分に、印を付けて分かりやすく記録を残せるようになっている。加えて、その時々利用者の状況が確認できるように、具体的に会話形式の記録を残すことができている。前回の目標達成計画に、「誰が読んでも、1日の様子が見えるように記録を充実させる」という目標を立てて、管理者等を中心に、充実した記録が残せるよう工夫を重ねている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	△	介護計画に沿ってケアを実践している。実践できた時は、ケアプランのタグをつけているので確認できているが、その結果どうだったかまでは時々しか記録できていない。	/	/	/	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	個人に応じた期間を設け、その都度見直しをスタッフと共にやっている。	/	/	/	◎ 介護計画の期間に応じて、6か月に1回を基本として見直しをしている。また、月1回短期目標ごとにモニタリングを行い、目標達成度等を○△×の印を付けて評価を行い、利用者の現状を確認している。さらに、利用者の状態に変化が見られた場合には、家族の意見や主治医の指示などを受けて、カンファレンスを活用して話し合い、現状に合った介護計画を作成している。加えて、変更した介護計画を家族に送付する際には、変更箇所が分かりやすいように手紙を添えている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	月1回のスタッフ会議時、入居者の状態をスタッフ間で共有し、現状の確認を行っている。	/	/	/	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	ご新規の方等見直しを行っている。状態が変わった時は、スタッフと話し合ったり、ご家族様にご連絡をし、現状を話し合い、必要であれば、プランの変更を考えている。	/	/	/	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	◎	定期的にはホーム会議、ユニット会議を行っている。緊急案件がある場合はその都度会議を開催している。	/	/	/	◎ 月1回ユニット会議を実施し、利用者の課題や現状などを職員間で検討をしている。また、2か月に1回全ての職員が参加したホーム会議を開催し、情報共有や内部研修を実施している。さらに、職員が会議に参加しやすいように、事前に日程や開始時間を設定するとともに、参加できなかった職員には、議事録を確認してもらうなど、確実な情報共有に努めている。加えて、緊急案件がある場合には、その都度管理者やユニットリーダー等が集まって迅速な話し合いを行うとともに、話し合われた内容は全ての職員に周知している。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	会議は輪になって話しやすい距離間で意見を交換したり、事前に意見を紙に書いてもらったりなどして、スタッフ全員の意見を反映させられるよう工夫している。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	○	出来るだけ、自宅が遠い方の都合に合わせ、時間帯もパートの方等出られる時間帯を個人に聞いて調整している。参加できなかった場合は、管理者が説明し議事録に押印してもらっている	/	/	/	
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	必ず、出勤者全員で申し送りをしている。また、前日や夜間帯等の共有は、重要な情報を抽出した介護日誌をもとに話し合う時間を設けている	○	/	◎	日々、朝夕の申し送りを口頭で行うほか、職員は情報交換ノートや介護日誌などに必要な情報を記載することができている。また、出勤時等には情報交換ノート等を確認するとともに、確認後にはサインを残し、全ての職員に正確な伝達を行い、情報共有に努めている。さらに、介護ソフトの記録をタブレット等で確認して、情報共有を行いやすくなっているほか、SNSのグループLINEを活用して、情報伝達が行われることもある。
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	本人の意向や、その日の様子を見て把握の努力をし、職員の勤務や状況を考えてそれを叶える努力をしている	/	/	/	◎ 事業所で収穫した野菜を使用した希望のメニューを聞いたり、誕生日にはリクエストメニューを提供するほか、数種類のケーキから好きなものを選んでもらったりと、職員は利用者へ声をかけて、自己決定できるよう支援している。また、職員が飼っている犬と触れ合ったり、ペランダで焼き芋をしたりするなど、日々職員は利用者の笑顔に繋がるようなアイデアや工夫を凝らしながら、その時々感情や思いをキャッチして、喜びや楽しみのある生活が送れるよう支援している。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくらせている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	◎	入浴後の服などを選んでいただくなど、自己決定する機会や場面を作っている。	/	/	/	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのベースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	◎	就寝は本人のタイミングで行っていただいている。入浴も長くつかりたい方に対しては健康状態を考慮して、ぬるめのお湯で10分つかるなど支援をしている。コーヒーをご自身のタイミングで飲みたい方には、その時間帯にコーヒータイムを設けたりしている。	/	/	/	
		d	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	◎	洗濯物たたみや、日々の食事作り、食器洗い、等を手伝っていただき、感謝の言葉を伝えている。	/	/	/	
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	主訴から少しずれた訴えに対してうまく対応できないことがあったが、訴えられた言葉から一つ一つ丁寧に考え、本人の意向に沿うようにしている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であかさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉かけや対応等)	○	入社時の研修や身体拘束適正化委員会で虐待や身体拘束は人権侵害であることを意識するようにしている。	○	○	◎	◎ ホーム会議の中で行う内部研修等を活用して、職員は利用者の人権や尊厳などを学んでいる。また、排泄の状況確認や介助を行う場合には、職員は利用者の羞恥心に配慮した支援に努めるとともに、他の利用者に失敗等が気づかれないような職員間の伝達が行われている。さらに、下着やパッド類を居室へ取りに行く場合にも、職員は配慮に欠けた無造作な対応をしないよう努めている。加えて、居室の入室時には、職員が声かけやノックをしてから入室するとともに、利用者の不在時にも、事前に声をかけてから入室するよう心がけている。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	◎	排泄時や入浴時にはプライバシーに配慮して扉を開めるなど注意出来ている。	/	/	/	
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	入室するときは、声掛けをしてからにしている。見守りが必要な時など以外は不必要に居室の扉を開けっぱなしにしないように配慮している。	/	/	/	
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	就業規則内の服務規律にも記載されており、日々の業務内でも個人情報の取り扱いには注意している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者にも助けを求めたり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	洗濯物たたみ、食事作り、食器洗いなどしていただき、助けていただいている。終了後は感謝の気持ちを伝えている。	/	/	/	職員は、利用者同士の関係性や一人ひとりの性格を把握し、言い合いなどの些細なトラブルが起こりそうな場合には、職員が間に入り、利用者にも場所を移動してもらったり、話題を変えたりするなどの対応をしている。また、利用者同士の良好な関係も築かれ、相互の声かけや、家事などの助け合う場面も多く見られ、職員は温かく見守りを行っている。さらに、職員や利用者同士が声をかけ合うことにより、男性利用者も孤立することなく過ごすことができている。加えて、職員の配慮もあり、事業所が開設してから今までに、大きなトラブルは発生していない。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	◎	寂しさや不安を感じられている入居者がおられると、入居者同士が優しい声掛けをしているのがよく見られる。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらおう場面をつくる等)。	◎	会話に整合性がとれなくなり、トラブルになりそうときは職員が間に入り、気持ちよく会話ができるようにしている。寂しさを感じておられる入居者に対して、世話役の入居者が手を握って声掛けされている場面もみられる。また、お互いに声をかけられ、ご自身のお部屋へ招待するなどされている場面も多々ある。	/	/	◎	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	◎	場所の移動や仲介をしている。また、話題を変える、作業提供をするなど別のところに気がそれるようにトラブルになる前に一時的に距離を置くなどしている。	/	/	/	
12	馴染みの人や場所との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	入居前には事前面談を行っています。又、日々の会話で話題にしたり面会の際にご家族様からお聞きする事もある。	/	/	/	
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていったりなど、これまで大切にしていた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	コロナの為、馴染みの場所に行くことは現在不可能だが、窓越し面会ではあるが、家族の協力があり、ご家族だけではなくお友達なども面会に来ていただいている。頻度も多く、人との関係が途切れないようには十分出ている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	◎	海岸沿いの散歩を行っている。ごみ捨ての際に一緒に屋外にて、入居者が固定されてしまわないよう声掛けを行っている。夕焼けが見たいと言われる入居者様と海まで見に行くなど、時間帯も出来る限り入居者様の希望を優先して行っている。	○	◎	◎	コロナ禍においても、日頃から、事業所近くにある防波堤沿い等の散歩をしている。また、職員は決まった利用者からの散歩に留まらないように、気軽に事業所から一歩出て季節やその日の天気、風景を感じてもらえるような支援にも努めている。また、訪問調査日には、雨上がりの空気や状況を楽しみながら、職員と散歩する利用者の様子を見ることができた。さらに、コロナ禍の感染状況を見計らいながら、感染対策を講じた上で、ユニット毎に利用者全員で、季節に応じて、ドライブをしてあじさいなどの花を見に行ったり、ドライブスルーでハンバーガーなどの買い物をして屋外で食べたりするなど、利用者が気分転換を図れるよう支援することができている。ワゴン車を寄贈してもらい、利用者の外出支援の機会が広がっている。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	コロナウイルスの影響もあり、ボランティアの協力での外出支援は出来ていない。コロナウイルス対策をしながらレクでの外出を行っている。外出先では、お弁当を食べる場所を提供していただくなど地域の方の協力を得た。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	△	認知症の理解を深めるようにホーム会議で少しずつ話をしたりしているが、理解度は経験年数などによってまちまちではあると言えない状態。	/	/	/	日常生活の中で、利用者一人ひとりの残存機能に着目して、洗濯物干しや取り込み、ゴミ捨て、調理の下ごしらえ、畑作業などのできることでできそうなことが行えるような環境づくりを行い、職員は見守りや待つ介護のほか、利用者と一緒に行動することができるよう支援している。また、歩行訓練の一環で、利用者一人ひとりの廊下を歩いた距離を壁に貼り出し、四国八十八ヶ所巡りの図を目安にして把握できるように工夫を行い、職員が手作りした一人ひとりの御朱印帳とともに、歩行訓練を行きつけや達成感にも繋がっている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	◎	毎日のラジオ体操、排泄は出来る限りトイレで行う。廊下の歩行訓練は廊下を歩行する楽しみが出るように工夫している。屋外の散歩・家事手伝いなど生活の流れの中で維持向上できるように努めている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行動している。(場面づくり、環境づくり等)	◎	台所に入っていたり、野菜を切ったり、座位でも、自席で玉ねぎの皮をむいていただくように場面づくりをしている。食器洗いもしていただいている。	◎	/	◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	◎	息子様や娘様にご飯をつくっていたという生活歴があり、今でも、ご飯を作るのが自分の役割だと思われている方がおり、調理の手伝いをしていただいている。	/	/	/	洗濯物干しやたたみ、調理の下ごしらえ、食器洗い、モップ掛け、ごみ集め、ラジオ体操の取りまとめ役など、日々の生活の様々な場面で、職員は利用者にも得意なことやできることを役割として担ってもらい、張り合いや自信に繋がれるよう支援している。また、歩行器にごみ袋を掛けて、ごみ出しを行う利用者もいる。さらに、地域清掃には、利用者と一緒に参加協力を行い、事業所周辺の草引きをするなど、職員は事業所内のみならず、役割や出番づくりにも努めている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごすように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	座位でたまねぎの皮をむいていただく、ラジオ体操時に体は動かしにくくても号令をかけていただく、一緒に洗濯物を干しに外に出る。ゴミ捨てに出るなど役割、出番をつくっている。	△	◎	◎	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	化粧水を使用されている方もおられる。思い入れのある時計や、アクセサリをされている。	/	/	/	起床時に、自分で着替えるとともに、化粧のほか、アクセサリを付けるなど、おしゃれを楽しんでいる利用者もいる。職員は、「全ての利用者にも、自分らしいおしゃれを楽しんでもらいたい」と考え、まゆ毛書きや化粧などの支援にも努めている。また、整容の乱れが見られた場合には、利用者のプライドや気持ちに配慮しながら声かけを行い、居室等に移動して着替えてもらったり、さりげないフォローをしたりしている。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	◎	入居時に使われていたものを持ち込み頂けるように声掛けしている。居室にもハンガーをかけ、上着などの自己決定が出来るようになっている。腕時計を入居者と一緒に購入したり、抱いて寝るぬいぐるみと一緒に選んで購入するなどした。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	温度調節できるように、季節に合った服装をアドバイスしている。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しむよう支援している。	○	外出時には気候に合わせて、夏場でも冷房が効いていそうな場所に出かけるときは、上着を用意するなど、支援している。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	◎	汚れている時には適宜更衣するようにしている。髭についても自分で剃れる方は剃っていただくように声掛けを行っている。床への食べこぼし等は職員が自然に掃除している。	○	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	美容師の資格を持つ、職員が髪を切っている。今は新型コロナウイルス感染対策の為、望む店での理容、美容は行っていない。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	現在、重度な方はおられないが、本人らしい髪形や服装をしていたらいいと思う。	/	/	○	
		h	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	食事は楽しみの一つとしてまた、栄養補給のため口から食べる事の大切さを考えながら食事形態等に配慮している。	/	/	/	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	もやしの根切り、玉ねぎの皮むき、材料を切る、お膳拭き、テーブル拭き、食器洗いなどしていただいている。買い物や献立づくりは入居者とともにしている。	/	/	◎	今までに作成した献立表や学校等の献立を参考にしながら、職員が献立を立て、週3回近隣のスーパーに職員が食材などの買い物に出かけるとともに、利用者に野菜の皮むきなどの下ごしらえや食器洗い、後片づけなどを手伝ってもらいながら、職員が調理をしている。広告を見て、食べたい物を言われる利用者もおり、普段から利用者のリクエストや好みを反映した食事の提供は、利用者に喜ばれている。また、季節に応じたうなぎなどの旬の食材を提供したり、事業所で収穫した野菜を使用したり、弁当を注文するなど、食事が少しでも楽しみになるような工夫をしている。食器類は、使い慣れた物を使用するほか、事業所で用意した使いやすい物を使用している。コロナ禍において、食事の際には、職員は食事介助などのサポートを行い、感染対策で利用者から少し離れた場所で同じ食事を食べるようになってきた。キッチンにはフロアに面してオープンとなっているため、利用者は調理の匂いや音などを感じることができる。加えて、栄養士のアドバイスまでは受けていないものの、調理師資格を持つ職員がおり、意見を参考にしながら、職員間で栄養面や調理方法などの話し合いをしている。
		b	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	◎	もやしの根切り、玉ねぎの皮むき、材料を切る、お膳拭き、テーブル拭き、食器洗いなどしていただいている。お手伝いをさせていただいた後には必ず、感謝の言葉を伝えるようにしている。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	アレルギーは入居前に確認している。好き嫌いについては、情報収集しているものもあれば、提供して分かってくるものもある。	/	/	/	
		d	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって音なつかしいもの等を取り入れている。	◎	献立は季節感ができるように、土用の丑の日には鰻を提供したり、夏にはそうめんを提供するなど工夫している。	/	/	◎	
		e	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	◎	現在はミキサー食や刻み色が必要な方はおられない。おかずの大きさは食べやすい大きさと提供している。盛り付け方法も料理に合った、食器の選定など工夫はしている。	/	/	/	
		f	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	茶碗や湯呑、箸は使い慣れたものを入居時に持ってきていただいている。が入居者全員は出来ていない。	/	/	○	
		g	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	昼食は職員も一緒に食べている。現在はコロナウイルス感染予防の為、同じテーブルでは食事をしていない。誤嚥や食事の様子などに注意食べこぼした場合のサポートを行っている。	/	/	◎	
		h	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	フロアからは音や匂いはもちろんのこと、作っている様子も見えるので、雰囲気作りは出来ている。	○	/	◎	
		i	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	入居者の体重の増減に合わせて、食事量の調節をしている。水分摂取量は、3食の他に、9時、15時やその間の時間に細かく摂取していただき、チェック表を用いて、一日トータルリットル摂取を目標にしている。	/	/	/	
		j	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	ご本人が好む飲み物を探している。スポーツドリンクが良いという方もおられるれば、水が良いという方もおられる。回数も3食の他に、水分補給するタイミングを増やしている。それでもなかなか摂取量が増えない方に対しては、ゼリーやアイスクリームを提供するなどの工夫を行っている。	/	/	/	
		k	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	△	栄養士のアドバイスは受けていない。偏った食事になりそうときはメニュー変更を行っている。	/	/	○	
		l	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	調理器具は次亜塩素酸水、ハイターで消毒をしている。食材は職員が買い物に行き、鮮度の良いものを選んでいく。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	口の中の清潔が保てるように食事の後は口腔ケアを実施している。必要に応じて仕上げ磨きを行い食物残渣がないか確認するようにしている。				職員は、口腔ケアの重要性を認識しているものの、研修の実施までには至っていないため、今後研修の実施を予定している。また、自分で歯磨きができる利用者にも、口腔内の様子の確認をするほか、仕上げ磨きのサポートを行うなど、日々、全ての利用者の口腔内の様子を確認し、異常が見られた場合には、早期の歯科受診に繋げている。今後、定期的な歯科医による定期健診も検討している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	◎	口腔ケア時に観察している。本人からの訴えがあるときには個人記録(介護ソフト)に入力している。必要時には歯科受診を行っている。			○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	×	歯科医や歯科衛生士からは指導は受けていない。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	夜間、入れ歯洗浄剤を使用しているため、清潔が保たれている。義歯ブラシも活用している。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	◎	本人の行きやすいタイミングを見計らって声掛けや誘導を行い、コップや歯ブラシを準備する。まずはご本人にしてもらい、不十分なところは適宜お手伝いするようにしている。異常がある場合は、歯科受診を行っている。			○	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	適宜トイレ誘導し、トイレでの排泄が継続出来るよう支援している。トイレ誘導のタイミングについても、排泄時間を記録して活用している。夜間のみポータブルトイレを使用されている方もおられる。				事業所には、常時おむつを使用している利用者はおらず、トイレでの排泄支援を基本としている。また、排便チェック表等を活用して、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、職員は利用者への声かけやトイレ誘導をしている。さらに、常にパッド類などの排泄用品の使用状況を見直して、用品の使用頻度を減らせるように取り組んでおり、夜間使用していたパッドの減少やサイズの変更に繋がった事例もあるほか、紙パンツから布パンツに変更することができた利用者もいる。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	◎	食欲減退や精神的な不穏、身体の不調等に繋がってしまうことを理解している。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	排便チェック表で排便の量、形状をチェック。排尿も排泄時間をチェックしてパターンを把握している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	夜間、日中、状態に合わせて、使用するパッドの種類を変更したり、見直しをしている。	◎		◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	朝食時にヨーグルトを提供したり、水分量のチェックを行っている。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排便チェック表にてパターンや兆候が分かるので、声掛けや誘導を行っている				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	意思を伝えられない方もおられる為、職員間で話しあい、感じた事気付きをご家族に報告相談了解が得られたら使用としている。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	◎	夜間のみ大きなパッドを使用するなど、昼夜での使い分け、熱発時や体調不良時に変更するなど適時使い分けしている。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	朝、メニューにヨーグルトを多くいれている。水分も食事から摂れる水分以外1リットル摂取することを目標としているが、それでも排便に滞りが見られる場合は、薬での調整を行っている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	時間帯と回数を決めている。本人からの拒否があった場合は、次の日に入っていたくように予定するなどしている。温度や入浴時間は健康上に問題がないかを考慮し希望に沿うように努力している。	◎		○	利用者は、週2回を基本として入浴をすることができる。季節に応じて、菖蒲湯やゆず湯など、気持ち良く楽しく入浴できるような工夫をしている。また、利用者から、入浴の回数や時間帯などの希望は今のところ出されていないものの、管理者は、「希望があれば、利用者の状態などを考慮しながら、できる限り対応していきたい」と考えている。さらに、入浴を拒む利用者には、時間帯や職員を替えて声かけをする工夫をするほか、散歩後に、入浴してもらうなどの対応を行い、入浴をしてもらうことができている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	同性介助が良い入居者に対しては同性介助を行っている。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	◎	自分で洗える所は自分で洗ってもらっている。浴室内の手すりも多く、入居者一人一人に合わせて、幅を調節できるので、安心して入浴していただいている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	◎	午前中、午後、など、時間を変える。声掛け、介助する職員を変えるなどの工夫。散歩してから汗をかいたのでと自然な流れで入浴できるようにしている。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴直前にバイタルの測定、入浴後は 適宜水分補給と休息がとれようとしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	昨晩が不眠だった場合には早めに休んでもらう等睡眠時間がとれるようにしている。個人記録にも睡眠状態を記入し、睡眠パターンを確認している。	/	/	/	事業所には、入居前から眠剤などの服薬を継続している利用者があるものの、「薬が効きすぎていないか、本当に必要かどうか」などの状態を確認しながら、主治医へ相談をしている。また、日中の過ごし方や職員の対応などの工夫を行いながら、薬に頼りすぎず、夜間に利用者が安眠できるよう支援している。中には、眠れない利用者が見られるものの、日中に昼寝などを取り入れるなど、ほとんどの利用者が、夜間に安眠することができている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	日中に活動をし、昼夜逆転にならないようにしている。しかし、体力面も考慮して、昼寝の時間も少しはとるようにしている。	/	/	/	
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	日中はなるべく起きていただくように、全体での体操の時間を設けたり、活動が少ない方には、声掛けを行い、コミュニケーションをとりながら、一緒に廊下を歩いたりしている。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	昼寝の時間を取るように声掛けを行っている。ご自分から居室に入られる方もおられるが、おやつや体操の時間などを把握されており、その場合も、ご自分から起きて来られる方が多い。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	◎	本人から希望があった場合にはご家族と電話で話を出来るように支援している。手紙の関しても、届いた手紙に対してお返事をかけるように、はがきの準備など、支援をしている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	△	本人からの要望には電話、手紙等、対応しているが、こちらからの促しは行っていない。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	希望があった場合は快く対応している。が入居契約時に、ご家族から、取次ぎをしないようにと言われている方に対してはとりづけない。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	◎	本人宛の手紙が来たときはお渡しし、届いたことを送り主にも報告するようにしている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	◎	家族に電話かけていただく事に理解、協力をいただいている。敬老会のメッセージの依頼をすると、送って頂いたり、して下さる。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	◎	お金を本人が使うことの大切さも理解はしているが、紛失のトラブルのリスクを考えて、お預かり金と言う形で家族からお金を預かっている。	/	/	/	
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	買い物先に理解や協力を得る働きかけを行うことはしていないが、トラブルになったことはない。新型コロナウイルス感染対策で、入居者とともに買い物に行く機会が少ない。	/	/	/	
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」など一時的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	紛失時のトラブルのリスクを考えて、お預かり金という形で購入希望があるものは購入できるように支援している。本人はお金を所持していない。	/	/	/	
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	◎	入居契約時にお預かり金という形で、使用させていただく事を説明している。	/	/	/	
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	お預かり金という形で、受領書の発行、毎月の利用料請求書送付時にレシートのコピーと出納帳を送付し、明確にしている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	◎	コロナウイルスの関係で関東や大阪に家族がおられる場合などは手紙を送っていただいたり、テレビ電話をしながら家族との関係が途切れないように支援している。	○	/	○	コロナ禍において、事業所には外出や面会などの制限が設けられているものの、利用者や家族の希望や要望に応じて、職員は可能な範囲で、柔軟な対応を心がけている。また、医療保険を活用して、デイケアを利用している利用者もおり、管理者は、「既存のサービスに捉われない、多様なニーズに応えていきたい」と考えている。
(3) 生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	玄関横に事務室があり、窓越しに来客者が来られたのがわかるので、声掛けを行っている。	◎	◎	◎	事業所横の駐車場には、自動販売機が設置され、近隣住民や高校生が良く利用している。また、事業所には、地域住民が集える地域交流スペースがあり、現在のコロナ禍において、開放を自粛しているものの、交流スペースは道路沿いから直接出入りできる構造となっている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を感じており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていない等。)	◎	廊下や台所、トイレなどは電気の色も温かさを感ぜられる色になっている。見通しもよく、食堂、台所、廊下で仕切っている壁やドアがないため、住まいとしての心地や良さがある。	◎	○	◎	各ユニットの壁には、特徴を活かした季節を感じる秋の果物や植物などの飾り付けが行われているほか、窓やテラスからの眺めを合わせて、利用者は季節を感じられるようになっている。また、建物は新しく、整理整頓も行き届いて快適な空間となっているほか、家庭的な雰囲気も感じられる。さらに、天井に設置されているエアコンは、利用者に直接風が当たらないような、風向きが調節できる優しい構造となっている。加えて、リビングの窓やテラスからは、海の絶景を見渡すことができ、毎日利用者や来訪者の目を楽しませてくれている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	毎日環境整備を行っている。臭いにも配慮し換気をする、次亜塩素酸水での掃除をしている。	/	/	◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	壁面の飾りを季節感に沿ったものに変更している。職員が、庭に咲いている花がある場合などは、テーブル等に飾るなどしている。	/	/	◎	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	フロアーにソファを置ける。机の配置も工夫し、気の合う入居者同士で思い思いに過ごせるようになっている。居室では独りになれる。廊下が一直線になっており、一歩居室を出ればスタッフコーナーに職員がいるので、人の気配を感じられる。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	家族の写真を飾ったり、使い慣れたものを持って来ていただくことで、本人が居心地よく過ごせるように工夫している。	○	/	○	居室には、ベッドやエアコン、ハンガーラック、ミニタンスが備え付けられている。また、馴染みの物や使い慣れた物を持ち込むことができるほか、職員は居心地の良い空間づくりを支援している。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	トイレにはトイレのマークを掲示、居室は表札を貼り、わかりやすいように工夫している。	/	/	○	事業所には、利用者が認識しやすいように、分かりやすいトイレの表示がされているほか、居室には表札のほか、分かりやすいように目印を付けるなどの工夫をしている。また、居室にあるハンガーラックは、身長に合わせて、利用者が使用しやすいように高さを調整している。さらに、利用者が毎日の日付けを確認できるように、日めくりカレンダーを設置している。
		b	利用者の活動意欲を醸成する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	新聞は1階と2階で順番に回している。読み終えた新聞紙は入居者とゴミ箱を作るのに活用している。	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていること、異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感、あきらめ、気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけることも済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	◎	身体拘束適正化委員会で鍵をかける事の弊害について勉強をした。夜間以外は鍵をかけていない。	◎	○	◎	職員は内部研修で学び、鍵をかけることの弊害を理解しており、日中に、玄関やユニットの入り口の施錠はしていない。利用者の安全に考慮して、センサーチャイムの設置があり、職員は出入りする利用者等を把握しやすくなっており、外へ出たい利用者には、職員が付き添い、一緒に屋外に出て散歩をするなどの支援をしている。また、利用者は気軽に窓から外に出て、敷地内でネギなどの野菜を収穫したり、朝顔などの花を觀賞したりすることもできる。さらに、事業所の窓から見える海沿いの小道を歩くことができ、開放感が感じられる。加えて、夜間は防犯のため、玄関の施錠をしている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	鍵をかけないことで一人で出て行ってしまおうのではないかと不安がご家族の方もいらっしゃるが、玄関ホールと居住空間の扉にはドアが開くと音が鳴る事も説明し安全確保についても説明している。	/	/	/	
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	入居前の面談の際に情報収集するようにしている。	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	バイタルを毎日測定し、変化を記録に残している。入浴前にも検温を行っている。	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	連携看護師の訪問、矢野Drの往診時に気になることがあれば、報告、相談を行っている。	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受診状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	かかりつけ医に関しては入居時に相談させていただいています。ご希望に応じて希望する医療機関で受診出来るよう支援している	◎	/	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	入居時にかかりつけ医の相談をし、納得を得られている。本人及び、家族の希望を大切にしながら、かかりつけ医に相談し、通院の介助を行っている。	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	◎	通院にしようとするときには事前に家族に説明し、合意をいただいている。同行の希望があった場合、一緒に行っている。結果についても、電話で報告を行っている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	◎	入院までの経緯をまとめ、入院先に情報共有している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	◎	病院関係者と連絡を密に取り合うようになっている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	往診の前日には入居者の健康状態に気になる所をFAXでDrに送っている。訪問日以外でも、皮膚の異常を発見したときなど、連携看護師に電話、ラインで画像を送るなどをして、アドバイスをいただいている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	連携看護師、Drの携帯電話番号を教えていただいているので、24時間相談できる対応がある。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできる体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	毎日バイタル測定を行っている。状態変化を感じ取れば、かかりつけ医に相談している。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	△	各個人別にお薬情報を管理し、すぐに確認できるようにしている。副作用等についてはすべて把握できていない。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	マニュアルを作成し、毎日トリプルチェックを実施している。朝昼夕で薬袋の色も変えひと目でわかる工夫もし、飲み忘れや誤薬を防げるよう取り組んでいる。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	◎	薬の内容に変更があった場合には特に気を付けて経過観察している。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	入居時に終末期のあり方について意向を確認し、終末期には主治医が説明し家族に再度意向を聞き話し合い方針を共有している。				事業所には、「看取り介護に関する指針」があり、入居時に全ての利用者や家族等に対応できることなどの説明を行うほか、状況が変化した場合には、再度意向を確認している。また、重度化や状態の変化があった場合には、その都度医師から説明してもらうとともに、関係者を交えて話し合い、方針を共有している。開設から1件の看取り介護を経験しており、主治医や看護職との連携体制が構築されている。さらに、看取り介護の研修を実施し、職員の不安や負担の軽減に努めている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	◎	入居時に終末期のあり方について意向を確認し、終末期には主治医が説明し家族に再度意向を聞き話し合い方針を共有している。	◎		◎	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	◎	医療連携機関と協力し、ホームで行える支援内容を明確にする。家族に説明し、同意を得るようにする。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	◎	理解と同意を得て対応するように、話し合いを行う。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	ご家族や協力医療機関と連携を図りながら支援していく体制を整えている。今後の変化に備えての準備はかかりつけ医よりアドバイスがある。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	◎	面会の際や電話等で経過報告をごまかしている。ご家族から相談があれば、ゆとり時間を取りお話しする時間を設けている。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	△	入社時に研修を行っている。定期的には出ていない。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	コロナの対策のマニュアルをたてている。インフルエンザに対しての出動停止の基準を作成し、周知している。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	◎	保健センターから最新状況をメールしていただいている。自発的にもインターネットから情報を収集している。				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	洗面台に手洗いの手順、洗い残しの多い箇所、アルコール消毒の手順を掲示している。食事前にはアルコール消毒を徹底している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	◎	変わったことがあれば、電話で報告している。2ヶ月に1回状況報告の手紙、写真付きの広報紙を発送している。また、何かの用事でご家族様に電話をする際も、近況報告をし、家族と話し合っている。	/	/	/	コロナ禍において、事業所では、家族の参加できる行事や会議の開催を自粛している。面会制限が設けられているものの、事業所の方針で、遠方に住んでいる以外の家族には、月1回利用料支払いで事業所に来訪してもらい、利用者や面会するほか、管理者や職員から利用者の様子を伝えて、意見や要望を聞くようにしている。また、2か月に1回事業所便りを送付するほか、担当職員が利用者の近況等を記載した手紙に写真を添えて送付をしている。さらに、SNSのFacebookを活用して、利用者の日々の暮らしの様子を見ることができている対応を行い、まだ少数であるものの閲覧している家族もいる。加えて、電話やメールなどのツールを活用して、家族と連絡を取りやすい工夫をしている。
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	○	広報紙に行事予定を掲載し、案内している。コロナが終息すれば、ご家族にも参加していただきたい。	x	/	△	
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たよりの」発行・送付、メール、行事等の録音、写真の送付等)	◎	家族が知りたいことや不安に感じていることがあれば、電話や直接施設でお話していただいたり、手紙のやり取りもし、手紙を書く場合は、写真などを載せ状況がわかるようにしている。	○	/	◎	
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	◎	関係性については概ね理解できている。薬代金と往診代金を毎月持って来ていただき、月に1回は面会していただきやすいようにしており、関係の再構築の支援をしている。	/	/	/	
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	◎	請求書を郵送する際に行事については広報紙で行事の予定を記載、写真での状況報告。運営推進委員会の資料で文章での状況報告を行っている。職員の異動退職については報告できていない。	◎	/	◎	
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	◎	入居時に高齢者に起こるリスクについて説明している。電話や面会時に状態報告し、これから起こるリスクについても説明や対策について話し合うようにしている。	/	/	/	
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	◎	ご家族様との会話の中で気がかりな事等ある場合は、密に連絡を取り合い、家族様と話をしている。	/	/	◎	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	重要事項説明書に記載して契約時に、難しい言葉などを使わず、時には解りやすいように具体例を出し、説明を行い同意を得ている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	◎	ご本人の経過をふまえてご家族や主治医と相談し納得のいく退去先に移れるよう支援している。	/	/	/	
III. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域、事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	◎	内覧会にきていただき、ホーム内を見学、パンフレットをお渡しした。地域の奉仕作業にも参加し、理解を図っている	/	◎	/	コロナ禍において、地域住民と交流する機会は少ないものの、事業所周辺の散歩時には、挨拶や会話を交わすほか、地域清掃の際には、利用者と一緒に参加して、草引きなどに協力をしている。また、事業所には、地域住民が気軽に集える場として、トイレやミニキッチンが設置されている地域交流スペースが整備されているものの、コロナ禍において、現在は活用されていない状況となっている。交流スペースは、道路に面した出入り口から、コロナ禍の収束後には周知を行い、活用を予定している。今年は、地域の秋祭りが実施される予定で、管理者は、「休憩所として、交流スペースを開放したい」と考えている。コロナ禍の収束後には、交流スペース等を活用した地域住民との交流が図られることを期待したい。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なおつきあいや、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	◎	奉仕作業への参加や海岸を散歩する時に、釣りをしている方や、散歩されている地域の方に挨拶をしたり、声掛けをしてもらったりしている。	/	◎	◎	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	◎	フロアへの窓からも散歩されている地域住民の方が見え、手を振っていただくことがある。また、海岸を歩かれる方から、姿が見えない入居者について、心配して下さる声掛けがある。	/	/	/	
		d	地域の方が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	x	現在はコロナ対策で立ち入り制限をしている。コロナウイルスが終息すれば、気軽に立ち寄りできるようにしたい。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	散歩中に会う時は、あいさつ出来ている。施設の玄関周りの掃除の時など近所様から、挨拶や声掛けをして頂く事がある。日常的なおつきあいは出来ていない。コロナウイルスが終息すれば、気軽に立ち寄りできるようにしたい。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	公民館に紅白幕や将棋盤などを貸していただけた。コロナウイルスが終息すれば、ボランティアにもきていただきたい	/	/	/	
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	◎	運営推進などで関係作りをしている。近隣のグループホームと交流があり、情報共有や、困った時は助けて頂いたりしている。消防では、花火行事等では連絡をするなどし名前を覚えて頂いたり、近日では、取れなくなった指輪を切ってもらう消防署に相談・訪れたことでも、お知り合いになる事が出来た。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	△	コロナウイルス感染予防のため、会議は中止し、運営状況をまとめた書類を会議メンバーに送付している。	○	/	△	開設当初からコロナ禍のため、今までに事業所では、集合形式での運営推進会議を開催することはできておらず、文書開催のみとなっている。文書開催においても、地域の区長や公民館長、消防団員、他の事業所の職員、町行政の担当者などの会議の参加メンバーに議事録を送付するほか、全ての家族にも資料の送付を行うことができています。また、議事録の送付時には、意見を伺う文書を添付して、意見や要望を聞くほか、出された質問や意見に対する返答を行うなど、書面開催においても、一方的な報告に終わらないような会議の工夫をしている。コロナ禍の感染状況を見計らいながら、集合形式の会議を行うとともに、事業所内の様子に参加メンバーに見てもらえる機会が持てることを期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	◎	運営推進会議の資料には必ず、ご意見のQ&Aを設けており、返ってきた質問はスタッフ会で話し合い、答えと会議の内容を必ずお送りするようにしている。	/	◎	◎	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	△	1か月前には案内を出す。参加しやすい時間帯のアンケートを取るなどして、通常開催になった時には少しでも多くの方に参加していただけるよう工夫したい。	/	/	○	
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念をフロア、玄関に見えやすいように大きく貼っている。	/	/	/	代表者は、近隣にある系列の介護サービス事業所にいることが多く、来訪する機会は少ないものの、日頃から管理者は相談しやすいほか、職員から出された意見をすぐに伝えて対応するなど、働きやすい職場環境づくりに努めている。また、ホーム会議を活用して内部研修を行うほか、認知症実践者研修や県地域密着型サービス協会の外部研修等に参加し、職員のスキルアップに努めている。さらに、定期的に、職員は個人の目標を立てて、年2回管理者等と見直しや振り返りなどの個別面談を行い、意見を聞くことができています。加えて、法人・事業所として、希望する外部研修に参加できるほか、資格取得への支援体制も整えている。
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	運営推進会議の資料に掲載するようにしている。	△	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文書の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	研修案内があった場合には全職員に案内し、適宜声掛けをして研修に参加している。	/	/	/	代表者は、近隣にある系列の介護サービス事業所にいることが多く、来訪する機会は少ないものの、日頃から管理者は相談しやすいほか、職員から出された意見をすぐに伝えて対応するなど、働きやすい職場環境づくりに努めている。また、ホーム会議を活用して内部研修を行うほか、認知症実践者研修や県地域密着型サービス協会の外部研修等に参加し、職員のスキルアップに努めている。さらに、定期的に、職員は個人の目標を立てて、年2回管理者等と見直しや振り返りなどの個別面談を行い、意見を聞くことができています。加えて、法人・事業所として、希望する外部研修に参加できるほか、資格取得への支援体制も整えている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	実践者研修に順番に行っている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	常に勤務表を把握しており、個々を気にかけている。また、研修へ行きたいと申し出のある者に対しては、金銭面等全面的にサポートしていただいている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	◎	地域密着協会に参加している。地域密着型サービス連絡会議に参加している。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	有給取得や急な欠勤でも対応できるように職員の勤務体制を作っている。	○	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	○	高齢者虐待の勉強会や研修などを行っている。また、スタッフ会やユニット会などでも、意見を出し合い、不適切なケアになっていないか話し合っている。	/	/	○	職員は、高齢者虐待の防止などを内部研修で学んでいる。また、対応方法のマニュアルを整備しているほか、定期的にホーム会議等を活用して、日々のケアの振り返りを行うとともに、「どのような言動が不適切な行為にあたるのか」などを、職員間で話し合い、注意喚起をしている。さらに、不適切な行為が見られた場合には、管理者等へ報告するなど、職員は対応方法や手順を理解している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返り話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	毎月ホーム会議、ユニット会議を開催し、話し合いの場を設けている。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	△	適宜、話を聞いたり仕事の様子を見るようにしている。が十分ではない。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	入社時の研修と身体拘束適正化委員会と研修を行い、正しく理解できている。	/	/	/	代表者は、近隣にある系列の介護サービス事業所にいることが多く、来訪する機会は少ないものの、日頃から管理者は相談しやすいほか、職員から出された意見をすぐに伝えて対応するなど、働きやすい職場環境づくりに努めている。また、ホーム会議を活用して内部研修を行うほか、認知症実践者研修や県地域密着型サービス協会の外部研修等に参加し、職員のスキルアップに努めている。さらに、定期的に、職員は個人の目標を立てて、年2回管理者等と見直しや振り返りなどの個別面談を行い、意見を聞くことができています。加えて、法人・事業所として、希望する外部研修に参加できるほか、資格取得への支援体制も整えている。
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	ホーム会議の身体拘束適正化委員会で、ホームの状況と照らし合わせて話し合いを行っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を促している。	◎	入居契約時に身体拘束はルール違反との認識をしており、緊急やむを得ない場合でない場合で、ご家族、本人に同意を得た場合でない限り行わない事を説明している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	△	一部の職員しか理解できていない状況。				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	×	該当する事例がない。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	急変時や事故発生時のマニュアルがあり職員に周知している。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	定期的な訓練は行えていない。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	ヒヤリハット・事故報告書があり発生時には報告書に記入し再発防止策を立てている。1階、2階回覧し、全職員に周知。ホーム会議で再確認を行っている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	同じ事故が繰り返さないように再発防止策を立て、検討を行っている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	今年度、事例はないが、苦情があった場合にはスタッフ間で共有し、対応方法について検討する。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	今年度、事例はないが、あった場合には速やかな対応と必要であれば、市町村にも相談・報告を行う。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情があった場合には速やかに回答と前向きな話し合いを行う。現時点で苦情は来っていない。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	◎	ケアプラン更新時に、本人の希望を聞く機会がある。また、日常的にも話していただいている。	○		◎	日頃から、職員は利用者から意見を聞き、可能な範囲で対応をしている。家族からの意見や要望は、来訪時や電話連絡などを活用して、職員は利用者の様子を伝えて、話しやすい環境づくりに努めている。介護計画の更新時には、家族から必ず意見や要望を聞くことができている。また、日頃から管理者は、現場で職員と一緒に利用者のケアに従事していることもあり、職員の意見や提案を聞いているほか、年2回職員との個別面談を実施するとともに、ユニット会議等を活用して、助言や相談に応じることもできている。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	◎	玄関に意見箱を設置している。運営推進会議の資料にも意見を記入するスペースを作っている。				
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	訪問し、直接職員に声をかけ、話をされている。				
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	◎	毎月のホーム会議後のユニット会に参加し、意見や提案を聞いている。また、個人的にも、提案や意見を聞き、ホーム会議の議題とするなどして全員で検討できるようにしている。			◎	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	入社時の研修で外部評価について、外部評価の項目の説明を行い、サービス評価の意義や目的を理解している。				外部評価の自己評価は、管理者等を中心に作成をしている。また、職員にはホーム会議等を活用して、サービスの評価結果等の報告を行い、ユニット毎に目標達成計画を立てて取り組んでいる。さらに、サービスの評価結果や目標達成計画等は、運営推進会議の参加メンバーや全ての家族に報告をしている。コロナ禍において、事業所へ来訪する機会は少なく、目標達成への取り組み状況の確認などのモニター機能の活用までには至っていないため、コロナ禍の収束後には、外部評価の目的や意義を伝えて理解を促して、参加メンバーや家族にモニターへの協力を呼びかけたり、目標達成に向けた途中経過を報告して、意見やアドバイスをもらったりするなど、出された意見等がサービスの向上に繋がることを期待したい。今後、管理者は、モニターの活用を予定している。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	今回の結果を踏まえて、実現可能な目標達成計画を作成し、事業所全体で取り組んでいく予定。				
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	今回の評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしていただく予定。	○	○	△	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認する。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	マニュアルがあり、玄関とスタッフコーナーに設置し、いつでも見られるようにしている。	/	/	/	事業所では、各種マニュアルを整備しているほか、年2回避難訓練を実施している。また、伊方原子力発電所から、八幡浜市内が30キロ圏内に位置することから、県の原子力防災訓練にも協力して、実際に松山への避難も経験している。近隣には、地域の消防団幹部の方が住んでおり、会議の参加メンバーにもなってもらうことができている。コロナ禍の収束後には、地域住民との合同訓練を呼びかけたり、運営推進会議を活用して、防災をテーマに地域住民が負担にならない程度の協力体制を話し合ったりするなど、少しずつ地域との協力支援体制が築かれていくことを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	日中の火災を想定した避難訓練を行ったり、原子力災害を想定した県の避難訓練に参加し、松山まで避難した。	/	/	/	
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	消火設備は業者へ委託し定期的に点検している。備蓄の食糧についても点検を行っている。	/	/	/	
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	消防署員に来ていただき、避難訓練を行っている。今回、9月中に避難訓練予定。地域住民や他事業所と合同訓練や話し合う機会などは確保できていない。	△	○	△	
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	県が行った原子力災害の避難訓練に参加し、松山のパートナーハウスかとれあまで避難を行った。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	地域に向けた情報発信として、運営推進会議で運営報告を行っている。認知症サポーター養成研修に参加したスタッフもあり。その他の研修には参加できていない。	/	/	/	開設から今までに、事業所として、地域の高齢者や家族から相談を受けた事例はないものの、相談が寄せられた場合には、適切に対応できる体制を整えている。コロナ禍において、会議や研修に参加する機会は少ないものの、地域包括支援センターや他の事業所との連携や協力を図ることができている。また、県地域密着型サービス協会に加入し、研修や会議に参加しながら連携をしている。管理者は、「この地域にとって、何が必要なのか、何か力になれることをしたい」という強い思いがあり、「地域の高齢者の生活に寄り添った事業所でありたい」との構想を練っている。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	△	電話での相談。施設見学に来られた際に相談を受ける事はあるが、地域の高齢者や認知症の人の相談支援取り組みまでは出来ていない。	/	△	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	事業所を開放、活用し、地域の交流の場、秋祭りの練り宿とし活用する事を前提に設計しており、コロナウイルスが終息すれば、積極的に地域交流していきたい。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	連絡があれば受け入れる予定。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	市内の地域密着型サービス事業者が集まる連絡会議に参加している。	/	/	○	